

社会資本総合整備計画

海津中央地区都市再生整備計画

平成 24 年 3 月

岐阜県海津市

都市再生整備計画(第1回変更)

かいづちゅうおう
海津中央地区

ぎふ かいづし
岐阜県 海津市

平成24年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|------|---------------------|-----|--------|----|--------|
| 都道府県名 | 岐阜県 | 市町村名 | 海津市 | 地区名 | 海津中央地区 | 面積 | 914 ha |
| 計画期間 | 平成 22 年度 ~ 平成 25 年度 | 交付期間 | 平成 22 年度 ~ 平成 25 年度 | | | | |

| |
|--|
| 目標 |
| <p>大目標 災害にも備えた「安全で安心して暮らせるまちづくり」</p> <p>目標1 既存道路改修による交通快適性の向上</p> <p>目標2 災害発生時における情報伝達手段の再構築及び住民の防災意識の向上</p> <p>目標3 快適な生活環境の整備</p> |

| |
|---|
| 目標設定の根拠 |
| <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> 海津市は、平成17年3月28日に海津郡海津町及び平田町、南濃町が合併しスタートしたまちであり、岐阜県の最南端に位置し、西部・南部は三重県に、東部は木曾川、長良川をはさんで愛知県に隣接している。本市の中央部を流れる揖斐川以東の地域は平地が広がり、以西は急峻な養老山地とその裾野に広がる扇状地・平地からなっている。北部は、養老郡、安八郡に接し、東は羽島市に接している。 人口は、平成17年の国勢調査によると39,453人となっている。昭和40年からの推移をみると、昭和45年から平成7年までは増加傾向にあったが、その後は減少に転じた。平成17年の人口は、平成7年の調査ピーク時に比べて約5.1%減少した。 本地区は、海津市の中央にあたり、揖斐川、長良川、木曾川の三大河川に囲まれた国有数の穀倉地帯及び海拔0メートルの水郷地帯であり、全国的に有名な輪中「高須輪中」である。 高須輪中は、地盤が弱く、地盤沈下の沈下率は全国的にも一番大きい地域である。 本市は、古くから水害の多い地域であったため、江戸時代の薩摩藩士による木曾三川分流を行った宝暦治水の史跡、明治時代のオランダの土木技師ヨハネス・デ・レーケらによって行われた巨石堰堤などの史跡が残る。 本市は、日本三大稲荷の「お千代保稲荷」、「国営木曾三川公園」、「海津温泉」、「水晶の湯」、「月見の里」、「クレール平田」などの観光資源が豊富であり、日帰り客を中心とした年間560万人以上の観光客数となっており、県内屈指の観光都市である。 本地区には、鉄道が無く、市内はもとより近隣の市町への移動手段は車やバスである。経済都市である名古屋市、岐阜市、大垣市、桑名市へは20～30分で到達することが可能なため、大垣市、名古屋市等への通勤・通学者が多い。 本市は、岐阜県の東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されており、地震発生時には大きな被害を受けることも予想されるため、建物の耐震化や避難所及び避難経路の整備、情報ネットワークの整備などの対策を進めている。 本市は、合併以降、3つの旧役場を海津庁舎及び南濃庁舎、平田庁舎として使用し、各課を分散して配置しているが、海津庁舎に統合することが平成20年度に決まったところである。 本市の上水道事業は、旧町ベースによる3つの区域からなっており、計画給水人口は46,900人、1日最大給水量は27,767㎥となっている。普及率が97.1%に達しており、給水体制は、ほぼ整備された状況にあるが、老朽化した配水管があり、市民に安全な水を安定して供給できる体制を確立していく必要がある。 |

| |
|--|
| 課題 |
| <p>本市は、人口減少や高齢化へ対応した交通施策の充実、災害に強いまちづくりの推進が、都市形成において喫緊の課題であり、また合併による新市の一体感の醸成を図ることが急務である。</p> <p>①道路整備の必要性 当地区は、市の中央に位置し、道路アクセスにおいて、合併後の海津町、平田町をつなぐ連絡幹線道路及び市の観光拠点をつなぐ連絡幹線道路が通っており、住民などの地域間交流の軸となっているが、地盤が弱く不等沈下の起きやすい地域であり、道路修繕の必要性がある。 特に、当地区は、平田町の「お千代保稲荷」(年間入込客数200万人)と海津町の「国営木曾三川公園」(年間入込客数170万人)をつなぐ連絡道路区間であり、当地区には鉄道が無いことから、道路整備の遅れは、重大な交通渋滞を引き起こし、交通事故の多発を招く恐れがある。</p> <p>②災害時の住民への情報伝達手段、消防施設の不安 当地区は、火災等災害時の住民への情報伝達を同報無線により行っているが、個別受信機を設置している家庭ばかりではなく、暴風雨時には放送がほとんど聞き取れない状況が考えられる。現状のままでは近い将来発生が予想されている東南海地震、また集中豪雨による輪中堤の決壊等の災害時に対して、確実に情報の提供、避難勧告、避難指示、被害状況の周知が行えるとは言い難い。一人の犠牲者も出さないため喫緊に情報伝達施設を整備する必要がある。 また、当地区では、近隣の大都市圏への若者の流出が顕著で、人口減少や高齢化が進んでおり消防署、避難所、避難経路を早急に整備し充実を図らなければならない。</p> <p>③老朽化水道管の不安 本市の上水道事業は、給水体制はほぼ整備された状況にあるが、老朽化した石綿配水管がある。上水道は、市民の大切なライフラインの一つであることから、地震対策を念頭に置いた災害に強い耐震管への布設替が必要である。</p> |

| |
|--|
| 将来ビジョン(中長期) |
| <p>海津市総合開発計画(基本構想2007～2016 基本計画2007～2011)</p> <p>基本構想 土地利用の基本方針にある「交通ネットワークの整備 道路網 本市の交流軸となる幹線市道等の整備」を推進するため、観光資源をつなぐ連絡幹線道路を重点的に整備する。 また、基本目標である「安全で快適な生活環境のまちづくり」をより充実させるために、防災対策の充実、利便性の高い道路網の整備、上水道の整備を重点的に進める。</p> |

| 目標を定量化する指標 | | | | | | | |
|-------------------|-----|--------------------------------|---|------|------|------|------|
| 指 標 | 単 位 | 定 義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | 従前値 | | 目標値 | |
| | | | | | 基準年度 | | 目標年度 |
| 地区内道路に対する満足度 | % | アンケートによる地区内道路に対する住民満足度 | 既存道路の改修により交通快適性を向上させる。 | 21.1 | 21 | 36.0 | 25 |
| 災害からの安全性に対する満足度 | % | アンケートによる災害からの安全性に対する満足度 | 防災行政無線の整備等を進めることにより、災害からの安全性に対する住民の満足度を向上させる。 | 14.3 | 21 | 37.3 | 25 |
| 防災訓練参加率 | % | 海津中央地区において、市が主催する防災訓練に参加する人の割合 | 防災訓練における住民参加率を向上させることにより、災害発生時における適切な避難・救済活動を向上させる。 | 20.3 | 21 | 22.0 | 25 |